

## 第3回十和田市外部評価委員会（記録簿・概要）

日時： 10月5日（水） 10：00～11：10

場所： 十和田市役所本館2階 議会会議室

出席者： 十和田市外部評価委員会委員 12名

（高井委員長、山端副委員長、洞内委員、佐々木委員、小林委員、櫻田委員、木立委員、中澤委員、越田委員、小坂委員、松森委員、西舘委員）

事務局： 中野企画財政部長、漆舘課長、田上副参事、蛭名係長、鳥谷係長、紺野主任主査、漆舘技師、立崎主事、櫻田主任主査

（10：00開始）

### 【開会】

#### 【委員長あいさつ】

（高井委員長）

委員の皆様には、評価表を提出いただきましてありがとうございました。

本日は、皆様から提出していただきました評価内容を最終確認していきたいと思います。

委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきながら進めて参りたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いたします。

簡単ではございますが、会議開催にあたってのあいさつとさせていただきます。

#### 【会議の進め方について】

（事務局）

それでは、本日の会議の進め方についてご説明いたします。

委員長からもありましたが、委員の皆様には「評価表」への記載、提出について、短い期間の中、対応いただき大変ありがとうございました。

お寄せいただいたご意見・評価内容は、事務局で類するものを整理するなどしてから、本日お配りしております「評価集計表」として、評価対象の12事業毎にまとめております。

本日は、この評価集計表の内容を踏まえて、委員の皆様により意見交換等を経て、委員会の最終評価をしていただきます。具体的流れは、初めに「評価集計表」に記載された要点を事務局から説明した後、委員の皆様で意見交換を行っていただきます。次に最終評価として各委員が事前に記載した「事業の方向性の選択」、ご意見の追加、削除といった事前に記載いただいた評価内容に変更があるかどうかを確認していただくものです。なお、評価のとりまとめ方については、今回の外部評価は地方創生に係る事業の効果検証として、「産官学金労言」の様々な立場から、より良い手法で事業に取り組むための改善点といった参考となるご意見を数多く頂戴したいということに主眼を置いていることから、委員会として「事業の方向性」の評価を一本化する形式ではなく、各委員の評価内容を整理した形式による委員会の評価とりまとめとしています。

最後になりますが、本日はこの最終評価の一連の流れを地元産品育成PR、6次産業化支援、地域資源を活用した観光振興、人材育成支援、移住促進、特定不妊治療費支援の6つの分野毎に行いたいと考えています。以上、簡単ですが事務局からの説明となります。

**【本日の会議の流れについて質疑応答】**

なし

**【案件（１）外部評価対象事業の最終評価について】**

●地元産品育成・PR 事業

≪②とわだ産品推進戦略事業～④販売推進戦略事業の評価について事務局から説明≫  
省略

≪②とわだ産品推進戦略事業に関する評価の追加・変更≫  
(修正等なし)

≪③十和田づくしフェア開催事業に関する評価の追加・変更≫  
(修正等なし)

≪④販売推進戦略事業に関する評価の追加・変更≫  
(修正等なし)

・情報発信力の強化が決め手となる。

●6次産業化支援事業

≪⑤6次産業化支援事業の評価について事務局から説明≫  
省略

≪⑤6次産業化支援事業に関する評価の追加・変更≫  
(修正等なし)

●地域資源を活用した観光振興事業

≪⑥観光パンフレット作成事業～⑨七戸十和田奥入瀬シャトルバス運行事業の評価について事務局から説明≫

省略

≪⑥観光パンフレット作成事業に関する評価の追加・変更≫  
(修正等なし)

≪⑦プロジェクションマッピング事業に関する評価の追加・変更≫  
(修正等なし)

≪⑧観光施設Wi-Fi化事業に関する評価の追加・変更≫  
(修正等なし)

≪⑨七戸十和田奥入瀬シャトルバス運行事業に関する評価の追加・変更≫  
(修正等なし)

(委員)

・七戸町も負担をしているということもあり、七戸十和田駅の有効活用の面もある。現状のまま継続と記載したが、その点が重要と感じたため。負担金の額は七戸町が多く出していると思ったがそうか。

(事務局)

負担金の金額は、2分の1ずつとなっている。十和田市と七戸町で負担して運行している状況となっている。

(委員)

- ・実際の話、レンタカーやタクシーにした場合、利用者にとって経費は安くなるのか。おそらく年間契約で委託していると思うが、その一部をレンタカーやタクシーにした場合、そんなに差はないのではないかと考えるがどうか。

(事務局)

バスの運行事業は、任意に決められた時間に運行し、誰でも気軽に利用できるというメリットがあります。タクシーにすると、その場所にタクシーがない場合については、上手く十和田湖まで行けるような連結ができないという問題があります。七戸町については、七戸十和田駅の有効利用、本市については、十和田湖奥入瀬への誘客というお互いのメリットを引き出す事業となっています。この事業は今年度で5年目となり、毎年事業の方向性について、七戸町と本市との協議会の中で決定していくことにしている。市側については、この外部評価で評価をいただきながら、七戸町と来年度の事業に向けた協議をすすめていきたいと考えています。

ご年配の公共交通機関を利用して旅される方々にとっては、非常に効果的な取組であり、問い合わせもあります。

(委員)

- ・他市の民間のバス会社との競争、競合により、もっと観光地に誘客、回遊性を持たせるかたちの方が効果的な面もあるのではないか。
- ・事業にもうひと工夫が必要ではある。

#### ●人材育成支援事業

《⑩若手観光ガイド育成事業の評価について事務局から説明》

省略

《⑩若手観光ガイド育成事業に関する評価の追加・変更》

(修正等なし)

(委員)

- ・高校生ガイドに、もっと深い知識がひとつでもあればいいのではないかと思う。今のままでは物足りなさが出てしまうのではないか。
- ・年配ガイドの育成もしているのではないか。

(事務局)

十和田湖奥入瀬観光ボランティアの方は、何人か新しく加入される方もいますが、数の推移をみると、一時の頃よりは減っています。また、高齢となって動ける方も少なくなってきた状況であり、実働の方は限られた人数の中で上手に回されている対応している状況だと聞いています。

(委員)

- ・若者が参加したくなる企画を望んでいる。旅先に行った時、物知りのガイドもいいが、その場所を好きで説明したいという思いがある若者が生き生きとしてガイドしているのがいい。
- ・若者を生き活きと発揮させる企画があれば、もう少し事業に弾みがつくのではないか。にこにこ笑顔で若者が案内するのは、とても魅力があると思う。

- ・若い子とバックグラウンドがあり、良く説明してくれる知識のある専門家のセットで観光ガイドを行えばいいのではないか。

(事務局)

従前のボランティアガイドとの連携した取組であれば、仕組み作りを検討していきたい。

(委員)

- ・十和田湖は、地質学や樹木など関連する分野がある。分野別にガイドの選択肢があればいい。ガイドもプロフェッショナル化した方が利用者はおもしろいと思うのではないか。

#### ●移住促進事業

《⑪移住希望者PR事業～⑫住宅取得助成事業の評価について事務局から説明》

省略

《⑪移住希望者PR事業に関する評価の追加・変更》

(修正等なし)

(委員)

9月に移住者体験ツアーを実施した結果、参加者の反応など教えてほしい。

(事務局)

参加者からのアンケートによると、非常に満足しているという方が75%、満足という方が25%という結果となっており、ツアーの内容については、非常に高い評価をいただいています。移住専門誌“ターンズ”と連携した事業となっていることもあり、ターンズからみたツアー内容の評価についてとりまとめしている最中となっています。評価内容等を整理した段階でHPを使ってお知らせしたいと考えています。

(委員)

- ・一番に仕事があればいいと思う。
- ・もう少しメディアを活用しながら、「十和田は災害が少ない、安全・安心なほっとするまち」と言う点をPRすればいいのではないか。

《⑫住宅取得助成事業に関する評価の追加・変更》

(修正等なし)

#### ●特定不妊治療費支援事業

《⑬特定不妊治療費支援事業の評価について事務局から説明》

省略

《⑬特定不妊治療費支援事業に関する評価の追加・変更》

(修正等なし)

(委員)

- ・中央病院へ産婦人科をつくるのが一番大切だと思う。
- ・分娩に関する補助は、実施しているのか。

(事務局)

当市は、分娩にかかる医療機関への交通費に関する助成を単独で実施しています。他の自治体の分娩にかかる助成事業を調査研究しながら検討していきたいと考えています。

### 【外部評価全般に関する各委員の意見】

(委員)

- ・もう少し事業を絞って評価をすれば、さらに充実した提言が出来ると思う。
- ・事業を絞り込んだうえで議論する方が、ひとつひとつの事業の評価内容が相当、深まると思う。
- ・分野外の事業を評価するという作業が難しい。
- ・インバウンドの関係は、市にとっても千載一遇のチャンスだと思う。ぜひ、掘り取ってほしい。
- ・外部評価を通じて、市が様々な施策を同時並行で連携をとりながら事業を実施しているのがわかった。
- ・仕事柄一緒に協力して行えることがあると感じた。市外に行った時は、十和田市のいい所をPRしている。もっと協力していきたいと思う。
- ・外部評価委員会の前段で、庁内の委員会で揉んでみてはどうか。それぞれの立場の代表として、外部評価委員がみる前にワンステップあった方がいいと思う。
- ・今回は、タイトな時間の中での外部評価であった。委員が考える時間がもう少しほしい。会議の回数があと1～2回あれば、もう少し深く事業を追求できる。
- ・制限時間のある中では、評価は難しい。
- ・委員同士でのディスカッション、意見交換ができる場があればよかったと思う。
- ・検証シートのKPI目標設定と事業概要との間に乖離があり、評価をしにくかったように感じる。
- ・それぞれの事業について、重点化を進めて行くことを検討してほしい。
- ・今回の外部評価によって、事業がどのように変わっていくのかをみせてほしい。
- ・事業数が多く、膨大な資料で、ひとつひとつの事業の内容がわかりにくかった。業者の方にも説明をしてもらえる機会があれば良かったように思う。
- ・ディスカッションをする時間がもう少しあれば良かったと思う。1事業について、半日かけて意見交換、評価までするやり方もある。
- ・資料が多過ぎるとなかなか頭に入らない、それよりもパワーポイント等を使って5分のプレゼンをやった方がわかりやすい。そのあたりの方法を考えてほしい。
- ・外部評価がひとつのパフォーマンスとして、やったということが重要だということになるのはまずい、次に活かすことが本来の主旨とならなければならない。

(委員)

最終的には、この評価は事業担当課に伝わるのか。

(事務局)

各課に結果を連絡し、来年の事業の組み立てに活かされていきます。PDCA サイクルをまわすひとつの手段となります。

(委員)

評価を反映した結果は、外部評価委員に示されるのか。

(事務局)

来年以降の外部評価で示していくこととなります。

(委員)

本来は、来年の外部評価の始まりは、今年度評価した事業がどのように行われたかという答えから始まる。それが、PDCAのAアクションの部分となる。

(事務局)

今回、委員の皆様には2年間の任期でお願いしています。今回事務事業評価いただいた事業について、来年も評価検証していただくという内容を盛り込みたいと考えています。

### 【その他（今後の予定など）について】

(事務局)

それでは、今後の予定につきまして、ご説明させていただきます。

外部評価の結果については、本日の意見交換を踏まえ、事務局において「評価集計表」の最終的な取りまとめを行い、後日、委員の皆様にご確認をいただいたうえで、HP等により市民に公表していきたいと考えています。

また、事務事業評価のあり方については、事業の絞り込みとか、検討時間の増という様々なご意見をいただきました。全てについて、委員の皆様方の意見のとおりに進めるという約束はできませんが、可能な限り次年度の取組に活かしたいと考えています。その中で1点だけ確認・ご意見をいただきたいところがあります。「事業の選定方法について」です。今年度については、地方創生に係る事業の効果検証ということを主眼に、事務局において対象事業を示す形で進めてきましたが、昨年までは、評価対象事業の一部を委員の皆様が選択して進めてきた経緯があります。事業を選んでいただくということになれば、そのための会議など負担も増える側面もある中、こういったかたちが望ましいのか、もしご意見があれば、この場でお伺い出来ればと考えています。よろしくお願ひします。

(委員)

- ・事業を選定した方が、委嘱されて責任という部分があっていいと思う。計上された事業を評価していくだけでは、面白みが足りない。会議の回数は多くなるが、選定していく中で深く評価できる気がする。

(委員)

来年もやるとしたら同じような時期になるのか。

(事務局)

評価・検証ということでしたら時期的には今ぐらいの時期になると思います。例えば事業の選択からとなれば、もう少し前からとなります。

(委員)

- ・委員のメンバーが来年も変わらないということであれば、事業の選択についても一覧表をFAXかメールで送付し、単純に集計して票が多いものについて外部評価をするかたちもあり。または、委員一人が何票か持ち、全体の中から事業を絞り込み、その中から、また投票して上位5つ位選ぶという方法もある。一回目の投票でこういう事業があったかと気づくこともある。
- ・事業の数を多くしてしまうと議論の深みがなくなってしまう、そこをどういう風に考えるかというところを次年度に向けて考えた方がいい。

(事務局)

ご意見をいただいた中で、事務事業の選定については、どのような視点、位置づけという観点でいくかが大きなポイントとなる。代表的な事業を含めて、どの観点からみていただきたいかというところから事業を絞り込みながら、タイトな時間でうまい具合に意見を集約できるような取組に繋げていきたいと考えています。

(委員)

- ・出来れば、紙ベースではなくプロジェクター等を使ったかたちでお願いしたい。

- ・プレゼンの方法について、紙ベースはずっと深く掘り込めるが、全体像がわからなくなってしまう。イメージを掴めるようなプレゼンをとりいれた方がよい。
- ・委員に1日開けてもらい、1日で外部評価を全てやってしまうという方法もある。

(高井委員長)

そのあたり、基本的には委員みんなで事業を選んでいこうと思っているという雰囲気  
を汲み取っていただき、事務局で検討してほしい。

(事務局)

まず、事業の絞り込みが大切なので、その辺を含めまして検討します。

#### 【企画財政部長より一言】

最後に一言お礼申し上げます。

高井委員長をはじめ、委員の皆様におかれましては、忙しい中、3回にわたる委員会に  
ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

外部評価委員会でいただきました事業の評価、貴重な御意見につきましては、各事業担  
当課と調整を図り、今後の事務事業の改善、新たな施策展開に活かして参りたいと思いま  
す。

委員の皆様には、来年度の外部評価につきましても、今回評価していただきました事業  
の検証も含めてご協力いただくこととなりますので、よろしく申し上げます。

本日は、大変お疲れ様でした。

#### 【閉会】

(11:10 終了)